

3. グループ討論するテーマは参加者に事前に配付しますので、予習をしグループ討論が活発になるよう準備願います。
4. 討論でグループごとに担当講師を混えて討議を行い、その結果をまとめ、8月27日のグループ討論報告会でそれぞれ発表討議します。
5. 申込時におけるグループ討論テーマは次の通りです。
 - (1) 強度・靱性・延性・破壊
 - (2) 熱間加工・制御圧延
 - (3) 圧延・引抜・押出
 - (4) 熱冷延薄鋼板
 - (5) 熱処理
 - (6) 溶接
 - (7) ステンレス
 - (8) 表面処理

注) 申込用紙は会告 N59 末ページに挿入されております。

~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~

## 新刊紹介

### 加熱炉炉内伝熱解析法の基礎と応用

日本鉄鋼協会  
熱経済技術部会加熱炉伝熱研究小委員会編

B5判 190頁 定価 会員 2,000円 (送料実費)

非会員 3,000円 (送料実費)

標記図書が昭和58年1月末、日本鉄鋼協会より出版の運びとなりました。

広くご利用いただくようご案内申し上げます。

〔内容〕 本書は「最近技術をふんまえた加熱炉の伝熱解析法の基礎と最先端の省エネルギー技術」を熱経済技術部会に設けられた加熱炉伝熱研究小委員会が“実際に役立つこと”を目的にとりまとめたものです。

〔背景〕 熱経済技術部会は標準加熱炉の設計技術として「加熱炉の設計と実際」(昭和29年10月)を発刊し、永く斯界のバイブルとした。

以後“加熱炉の伝熱”に関しては「連続鋼片加熱炉における伝熱実験と計算方法」(昭和46年5月)をまとめ、その炉内の伝熱解析法は実炉の解析に広く適用されている。

しかるに、近年電子計算機の普及により、数値解析による炉内伝熱解析が急速に進歩し、各種の解析法が研究されて実炉への適用も可能となつてきた。また、実際の加熱炉においても2度にわたるエネルギー危機の遭遇により省エネルギーとエネルギー多様化のニーズが一層高まり、操業、工程、設備面に数多くの技術開発とその適用が行われている。従つて加熱炉伝熱研究小委員会を発足し、ここ10年間の進歩もふまえた「炉内伝熱の基礎と省エネルギー面からの伝熱特性」についての応用研究と調査を行つた。

〔目次〕 緒言/伝熱解析法/炉長延長と噴流加熱の炉内伝熱特性と最適炉長/空気比と伝熱量の関係/ホットチャージ時の加熱炉操業形態/各種燃料の伝熱特性/その他の伝熱効率向上技術の紹介/加熱炉の伝熱測定のための温度計測技術